

国際コンテナ戦略港湾政策の取組

令和7年1月31日

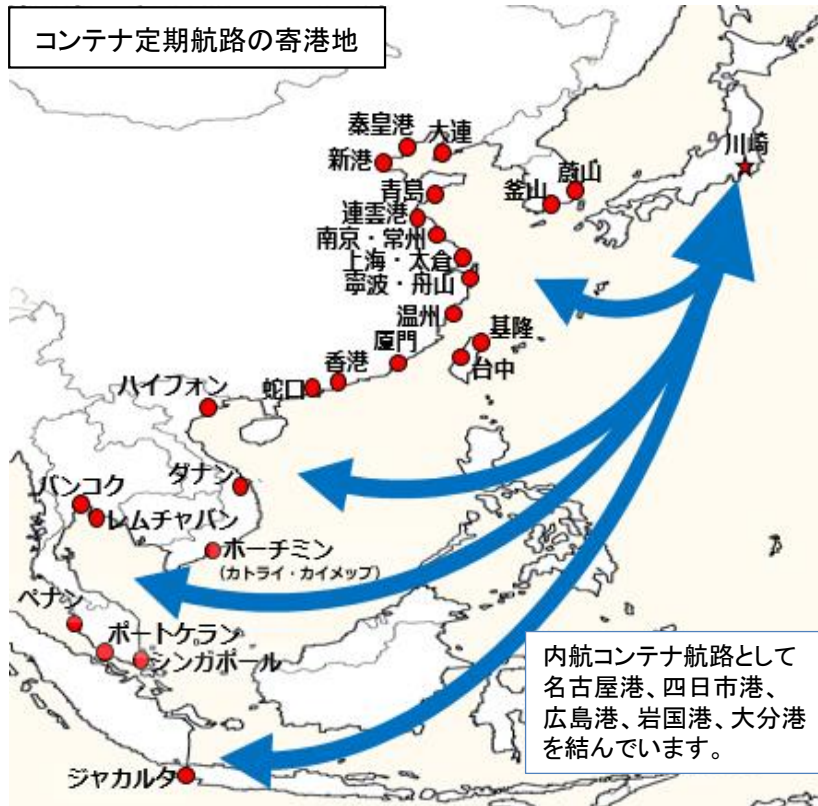
川崎市 港湾局

【川崎港の概要】コンテナ定期航路とコンテナ取扱貨物量の推移

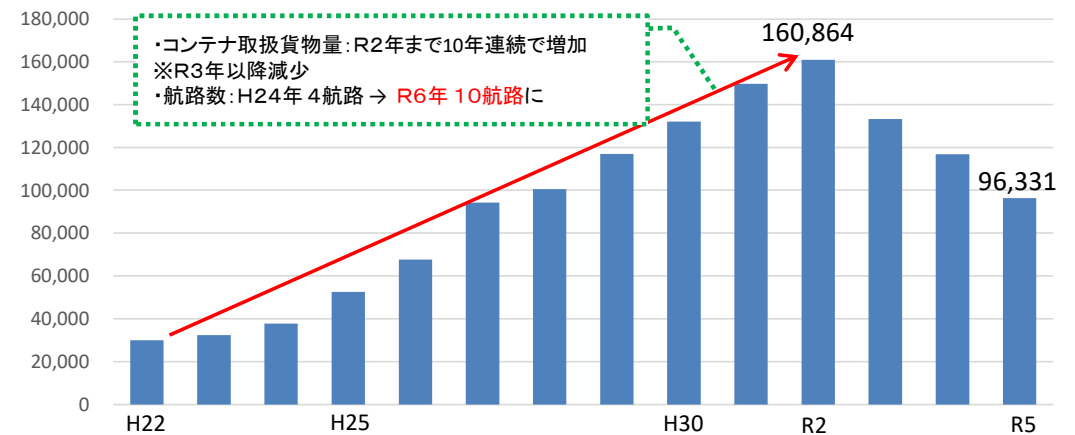
- ・ 川崎港では、中国・東南アジア航路の増加に伴い、コンテナ取扱貨物量が令和2年まで10年連続で過去最高を記録
- ・ 新型コロナの影響や世界的なサプライチェーンの混乱等により、コンテナ取扱貨物量が減少し、その傾向が続いている。

アジアの輸入貨物の取扱拠点機能を担う

コンテナ定期航路の寄港地



単位: TEU ※公共ふ頭におけるコンテナ取扱貨物量(令和5年のみ速報)



コンテナの主要品目と主な輸入輸出国(令和5年)(公共ふ頭)

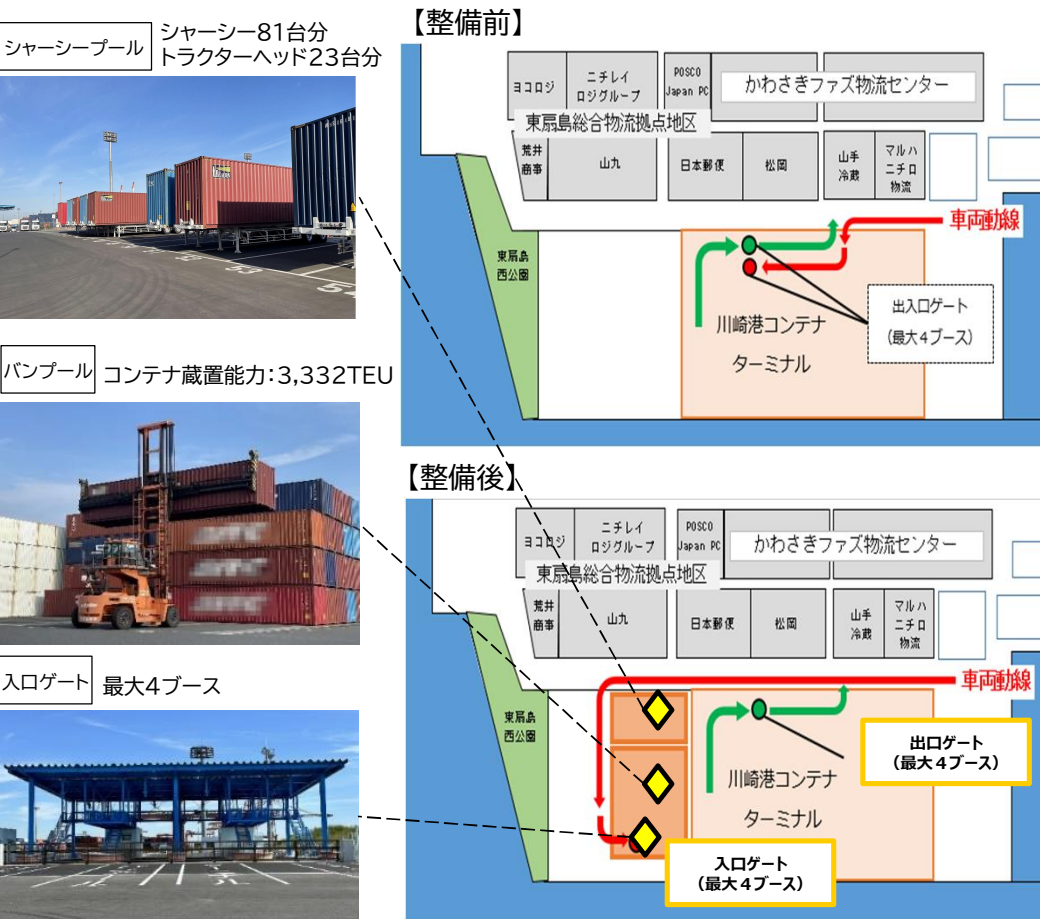
＜輸入＞				＜輸出＞			
		単位:(トン)				単位:(トン)	
品目	主な輸入国		取扱量	品目	主な輸出国		取扱量
1 家具・装飾品	ベトナム	中国	479,991	1 自動車部品	インドネシア	台湾	92,793
2 その他日用品 (日用雑貨など)	中国	ベトナム	195,894	2 化学薬品	中国	シンガポール	33,882
3 製造食品 (冷凍食品など)	タイ	中国	47,555	3 産業機械	中国	タイ	18,275
4 がん具	ベトナム	中国	38,999	4 合成樹脂等	マレーシア	中国	10,207
5 衣服・身用品・はきもの	ベトナム	シンガポール	23,412	5 取合せ品	中国	シンガポール	6,340

川崎港コンテナターミナル等の機能強化に向けた取組

1 コンテナ関連施設の整備

令和5年度にバンプール、シャシープール等を供用開始し、コンテナターミナルの機能強化を実施。「降ろし取り」※により、ドレージの大幅な時間短縮が可能。

※搬入コンテナ(空)を降ろした後、出口ゲートを經由せずに搬出コンテナ(実入り)を積み込むことができる。



2 臨港道路東扇島水江町線整備事業の進捗

- 整備箇所：川崎港 東扇島～水江町
- 整備施設：臨港道路 延長3.0km
- 事業期間：平成21年度～令和9年度
(本線とOFFランプ)
～令和12年度(ONランプ)

○事業箇所 周辺図



① 東扇島AP部



② 主橋梁部MP1～MP3



③ 橋脚MP5,6

港湾施設の機能強化等に向けた取組 ～港湾計画改訂(R6(2024).11)の主な内容等～



扇島地区の土地利用転換

水素を軸としたカーボンニュートラル
エネルギーの供給拠点形成
水素受入可能な港湾施設の整備

カーボンニュートラルなエネルギー供給拠点の形成

【CNの取組】

<液化水素サプライチェーンの商用化実証>

2021年度～2030年度(予定)

2024年7月 扇島地区を実証の液化水素受入地として選択

2028年度 設備建設完了

2029年度 液化水素運搬船入港

2030年度 実証完了⇒ 国内への水素供給開始に向けた取組を進める

※出典:民間3社のニュースリリース(2024.7.25)

土地利用計画の変更・臨港道路の配置
(工業用地 → 港湾関連用地・埠頭用地)
物流施設用地の確保、臨港道路の整備 等

ロジスティクス機能の強化

最新技術等を活用した高度物流拠点

→ GX・DXによる効率化・高付加価値化を実現した高度物流拠点の形成

<導入想定施設>

・設備スマート化や輸送効率化、カーボンニュートラル化に資する高度な物流機能、水素等供給拠点 から出た冷熱を利用した倉庫、それらの利用を支える公共的に利用できる港湾施設など



コンテナターミナルの機能強化

コンテナターミナルへ
バン・シャーシープールを編入

コンテナ取扱貨物機能の強化

掘込部の土地利用計画の変更

土地利用計画の変更・臨港道路の配置
(埠頭用地・港湾関連用地の配置変更)
物流施設用地の確保、臨港道路の整備、環境整備 等

ロジスティクス機能の強化 快適に過ごせる環境の形成
カーボンニュートラルなエネルギー供給拠点の形成

カーボンニュートラルポート(CNP)形成に向けた取組



CNP形成を推進するための具体的な取組について定めた川崎港港湾脱炭素化推進計画(CNP形成計画)を令和5年9月に策定(直近改訂R6.3)

1 脱炭素化の促進に資する取組方針

水素を軸としたカーボンニュートラルなエネルギーの供給拠点の形成

- ・ 水素等の取扱拠点の整備や水素配管を活用した供給体制の構築
- ・ CO2フリー水素等からモビリティ燃料や電気等を製造して首都圏に供給

川崎臨海部の面的・効率的なカーボンニュートラル化

- ・ 設備の効率化等の個社による取組やCCUSサプライチェーンの形成
- ・ 脱炭素化に配慮した港湾機能高度化の積極的な推進

2 港湾脱炭素化推進計画の目標

○水素等の供給目標

約2,300t/日 (2050年までの長期における推計値)

○温室効果ガス削減目標

目標名		短中期 (2030年度)	長期 (2050年)
温室効果ガス削減目標(2013年度比) (2020年度からの温室効果ガス削減量)	計画全体	50%以上削減 (6,826,982t-CO ₂)	実質ゼロ (15,998,139t-CO ₂)
	港湾管理者 排出分※	90%以上削減 (3,060t-CO ₂)	実質ゼロ (3,338t-CO ₂)

※公共ターミナル及び公共港湾施設等において、港湾管理者が排出しているもの(2013年度:2,786t-CO₂、2020年度:3,338t-CO₂)

温室効果ガスの排出が実質ゼロになった 港湾ターミナル(公共)の割合	90%以上達成	100%達成
--------------------------------------	---------	--------

目標達成に資する事業
を位置付け

3 港湾脱炭素化に向けた事業

水素等の供給に関する事業 ・ 港湾脱炭素化促進事業

川崎市・立地企業等が取り組む事業

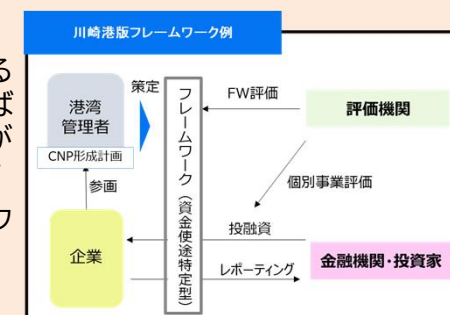
40主体 **108**事業

コンテナターミナル(CT)におけるこれまでの取組

- ・ 管理棟、ヤード等のLED照明化
- ・ 再生可能エネルギー由来電力の導入
- ・ 水素燃料電池換装型RTGの導入
- ・ CT管理車両をPHEV車に変更

4 川崎港版トランジションファイナンス・フレームワークの策定

- ・ 事業者が脱炭素に関する事業を実施するために投融資を受ける際に策定しなければならないフレームワークを港湾管理者がCNP形成計画を基に策定する方向で検討
- ・ この第三者利用型の資金使途特定型フレームワークは国内前例なし



カーボンニュートラルポートの実現 **選ばれる港へ**